

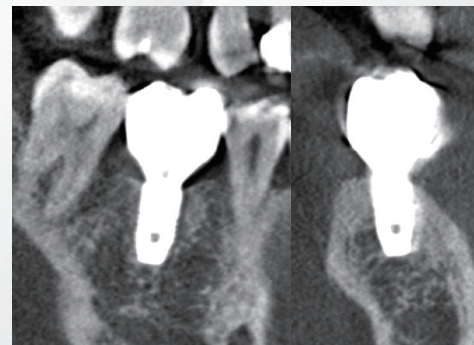
傾斜した臼歯部顎堤に Astra Tech Implant EV Profile を適応した症例



松本 和久

松本デンタルオフィス
日本臨床歯科学会 会員
日本顕微鏡歯科学会 評議員
Carl Zeiss 公認インストラクター
MTIJ 講師
(Microsurgery Training Institute Japan)

患者は初診時 41 歳の女性。下顎右側第一大臼歯欠損に対するインプラント治療を希望し、他医院からの紹介にて来院。抜歯から約 5 か月が経過しており、抜歯部位はほぼ治癒している状態であった。精密検査の後、矯正治療を含む全顎的治療を行うこととなり、欠損部には補綴主導型によるインプラント治療を計画。矯正治療がある程度進んだ後、咬合関係・粘膜の厚み・粘膜貫通部のアバットメントの contour を考慮して埋入計画の立案を行う。理想的なフィクスチャーの埋入位置が顎堤の傾斜している位置となることから、Astra Tech Implant EV Profile を選択した。本症例においては、顎堤の傾斜に一致するスロープ上のプラットフォームを有するフィクスチャーの使用により、既存の歯槽骨を最大限有効に活用することができた。



1. 初診時口腔内写真（右側）。上顎右側臼歯部に挺出を防ぐ目的でワイヤーによる固定が施されている。



2. 初診時口腔内写真（正面）。



3. 初診時口腔内写真（左側）。



4. 初診時口腔内写真（上顎咬合面）。右側臼歯部に挺出を防ぐ目的でワイヤーによる固定が施されている。



5. 初診時口腔内写真（下顎咬合面）。抜歯後約 5 か月経過しており、顎堤は頬舌的に吸収し、角化粘膜の幅も減少している。



6. 下顎右側第一大臼歯抜歯前のパノラマ X 線写真。著しい歯根吸収が認められる。



7. 下顎右側第二大臼歯の upright を予定。そのため、upright 後の状態を考慮して埋入位置の計画を行う。



8. 咬合関係・粘膜の厚み・粘膜貫通部のアバットメントの contour を考慮し、顎堤の傾斜とフィクスチャーのプラットフォームの傾斜を一致させるように埋入位置を計画。



9. Astra Tech Implant EV Profile 4.2PS - 9 mm を埋入。



10. インテグレーション後、Provisional restoration を装着し矯正治療を継続。



11. 矯正治療終了時。



12. ATLANTIS™ abutment Titanium gold-Shaded を 25N で締結。



13. 最終補綴装置は Monolithic zirconia crown を選択。



14. 最終補綴装置装着後の CBCT 画像。



15. 最終補綴装置装着後の CBCT 画像。顎堤の傾斜とフィクスチャーのプラットフォームの傾斜が一致している。



16. 最終補綴装置を装着。Excess cement の取り残しを防ぐために圧排コードを使用し、セメントは Resin-modified glass ionomer cement を選択。



17. 最終補綴装置装着後の口腔内写真。



18. 最終補綴装置装着後の口腔内写真。

CASE REPORT は著者による実症例を紹介することを目的に作成しています。

臨床医 / 技工士向けの参考として掲載されたものであり、必ずしもデンツプライシロナが推奨するものではありません。

レポート中に記載されている™および® は、米国連邦商標法に基づき記載されたもので、日本における登録商標を意味するものではありません。

一般的名称：歯科用インプラントシステム 販売名：オッセオスピード EV 承認番号：22800BZX00381000 高度管理医療機器

一般的名称：歯科用インプラントシステム 販売名：オッセオスピード プロファイル EV 承認番号：22900BZX00322000 高度管理医療機器

製造販売元：デンツプライシロナ株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビル
カスタマーサービスホットライン 0120-667-467
www.dentsplysirona.com

 **Dentsply
Sirona**

MRK040000024_202509_M086